



図書館・文書館・ふるさと文学館 3館連携展示 新札発行記念

北里柴三郎と山崎光夫

7月3日より新たに発行される新千円札に、細菌学者・北里柴三郎の肖像が採用されました。これにちなみ、福井ゆかりの作家・山崎光夫氏が北里柴三郎を描いた文学作品を紹介します。

期間：2024年5月24日（金）～ 8月28日（水）

項番	著者	種類	タイトル	出版年	出版者
1	山崎光夫	書籍	『ドンネルの男・北里柴三郎』	2003年	東洋経済新報社
2	山崎光夫	書籍	『小説北里柴三郎』	2020年	東洋経済新報社
3	山崎光夫	自筆資料 (複製)	色紙「発見と発掘」	—	—
4	山崎光夫	自筆資料 (複製)	「ドンネルの男・北里柴三郎」校正原稿	—	—
5	山崎光夫	書籍	『ジェンナーの遺言』	1986年	文藝春秋
6	山崎光夫	書籍	『明治二十一年六月三日』	2012年	講談社
7	山崎光夫	書籍	『鷗外青春診療録控 本郷の空』	2023年	中央公論新社

北里柴三郎(1853～1931)

1871年、18歳のころ熊本の医学校でオランダ人医師マンスフェルトに師事し、医学を志します。1874年、東京医学校(現・東京大学医学部)に入学し医学を学びました。

卒業後の1885年、ドイツ・ベルリン大学に留学し、病原微生物学研究の第一人者コッホに師事して研究に専念します。1889年には破傷風菌の純粋培養に成功。共同研究者ベーリングと共に破傷風菌の毒素に対する抗体を発見し、治療法を確立しました。

1892年、日本に帰国すると伝染病研究所を創立し所長に就任。1894年にはペストが蔓延する香港での現地調査でペスト菌を発見しました。その後、1914年に伝染病研究所が移管されると私立北里研究所を設立。1917年には慶応義塾大学部医学科(現・医学部)の創設に尽力し、初代医学科長に就任しました。晩年も研究や教育・社会活動に取り組み、1931年に78歳で亡くなるまで日本の近代医学の発展に尽くしました。

山崎光夫著『ドンネルの男・北里柴三郎』

『週刊東洋経済』にて2002年4月から1年3か月にわたる連載を単行本化したものです。日本の医学に尽くした気骨ある人物として北里の生涯を描いています。タイトルの「ドンネル」はドイツ語で雷のことで、門下生たちが北里を「ドンネル(雷おやじ)」と呼んでいた逸話にちなみます。文庫化、新装版文庫化に続き、2020年、加筆修正を加えた『小説北里柴三郎』が出版されました。

